

## 〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

<b>団体名</b>	藤沢市プレスクール教室
<b>事業名</b>	藤沢市プレクラス教室
<b>補助金額</b>	200,000円
<b>事業の目的</b>	
藤沢市内の小・中学校に転入する外国につながる子どもが困難を抱えることなく学校生活がスタートできるよう、子どもとその保護者を支援する。また、関係部署と連携を図り継続的な支援を目指す。	
<b>事業の内容と成果</b>	
<p>＜事業の内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月～3月：藤沢市プレクラス準備会議（7回、メンバー5～9人）</li> <li>・ 8月：第1回藤沢市プレクラス実施（藤沢青少年会館）</li> <li>・ 11月：藤沢市プレクラス報告会実施（青少年会館）</li> <li>・ 3月：第2回藤沢市プレクラス実施（湘南台公民館）</li> </ul> <p>＜成果＞</p> <p>1.プレクラスは、8月と3月の2回行い、それぞれ2日間かけて開いた。参加者は、累計35名（第1回7名、第2回28名）、見学者が累計17名（第1回10名、第2回7名）。保護者の出身国は、5か国であり、通訳の言語は、6言語となった。保護者へのアンケートによると、内容に対する評価は高く、日本の学校に入る前の不安の解消に多少つながったと考えられる。子どもの情報を教育委員会や学校と共有してもよいとアンケートで了承を得た方については、教育委員会の日本語コーディネーターと情報共有した。これらのことから、スムーズに学校生活を始められる一助となったと考えられる。見学者を通して横須賀市初期集中指導教室でのプレスクール教室の見学の機会が得られ、他市との情報交換もできた。学校関係者や藤沢市内外の地域での関心が高まり、今後もつながりが期待されることから、多文化共生がいくばくか進んだと考えられる。</p>	 <p>2. プレスクール報告会は1回行い、参加者は5名。所属は、藤沢市みらい創造財団、藤沢市日本語指導員、国際教室担当者、保育園の保護者であった。報告会をきっかけに、みらい創造財団が学童へもチラシを配付することになる等、目標としていたネットワークづくりにつながった一面もあったが、そのほかの団体とのネットワークづくりにはつながらなかったことが課題として残った。ただ、参加者のうち1名がプレクラスに興味を持ちメンバーに加わり、活動の賛同者を得るといった成果はあった。</p>
<b>事業を実施しての課題</b>	
<p>1.周知のための準備不足。開催日を平日か休日か、どの曜日か、どの時期がよいのかなど、経験不足で、決定が難しかった。/2.外国につながる保護者への周知方法。周知先を広げているが、周知の期間をもっと設ければ情報が届くのか、届いても意義が伝わるかわからない。住民登録をしてから、藤沢市内での切れ目のないアプローチを市内で構築し、各部署でその意義を理解してもらう必要がある。/3.保護者の言語への対応。メンバー以外の通訳となると、翻訳は依頼できない。できるだけ多くの言語の通訳者とつながりを作っておくことが必要である。/4.参加できる子どもの線引き。対象とする子どもを広げたところ、認知的発達だけでなく、日本語レベルも多様になった。子どもグループの講師の手配や、準備が複雑になった。また、保護者グループも、中学校の説明も加わると情報量が多くなり、消化不良気味になった。/5.事業継続のための分担。さまざまな専門分野のメンバーが適材適所で活動できるよう整理する必要がある。/6.申し込み人数や通訳が必要な言語がわかるまでの人員の予算化が難しい。/7.チラシや申し込みフォームの改良。チラシの地図がわかりにくく、迷って遅れた参加者もいた。</p>	